

高校生 I C T 2018 Conference

in 長野

社会で活躍するための I C T 活用法 ～ 18才成人化を控えて ～

開催報告書

2018年9月29日(土) 10:00-17:00

【会場】安曇野市明科公民館 (長野県安曇野市明科中川手 6824 番地 1)

主催

長野県教育委員会

高校生 I C T カンファレンス実行委員会

(構成団体)

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁



2018

2018年11月15日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2018 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2018 in 長野 開催概要 エラー! ブックマークが定義されていません。	
4. 主担当.....	10
5. 高校生 ICT Conference 2018 サミット.....	10
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	10
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	11

1. 開催概要

名 称：	高校生 ICT Conference 2018 テーマ：社会で活躍するためのICT活用法 ～ 18才成人化を控えて ～
主催：	長野県教育委員会 高校生ICTカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁、
後援：	一般社団法人全国高等学校PTA連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、 ※地域後援があれば追加
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ディー・エヌ・エー、一般社団法人情報教育研究所、株式会社ラック、グリー株式会社、株式会社サイバーエージェント、LINE株式会社、株式会社インテグラル、エースチャイルド株式会社、Twitter Japan株式会社、株式会社ベルパーク、株式会社メディア開発綜研、アルプスシステムインテグレーション株式会社
協力：	株式会社内田洋行、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイトジャパン株式会社、 ※地域協力があれば追加
開催目的：	高校生 ICT Conference は、2011年度に「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012年度は、東京開催を加え計17校79人の高校生が参加し、2013年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて5拠点にて開催し、計51校267人の高校生が参加しました。2014度も同5拠点にて開催し、計44校221人の高校生が参加しました。 2015年度は、石川、長野、神奈川、福岡を加えた9拠点にて開催し、計78校310人の高校生が参加しました。2017年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに北海道帯広、仙台、静岡、新潟、高知を加えた14拠点にて開催し、計107校476人の高校生が参加しました。 高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人に

なる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。

【本年開催テーマのコンセプト】

2016年の参議院選挙から18才選挙権がスタートするとともに、成人年齢についても20才から18才への引き下げが暫時検討されてきました。2018年1月第196回国会で、成人年齢を18才とする民法改正案が提出され、これまで20才での成人という常識が、変わろうとしています。未成年者は親権者あるいは未成年後見人の親権に服することとなっており、成人になるということは、親権者の同意なく自身の判断で「契約」行為などを行うことができるようになります。

インターネットが私たちの生活に普及し、スマートフォンなど携帯型端末を持ち歩き、いつでもどこでもインターネットのサービスを利用できるようになりました。一方でクレジットカードやプリペイドカードの普及、仮想通貨の登場など、現金以外での取り引き方法がインターネット上では多く利用されるようになり、手元で簡単に契約行為を行うことが可能になりました。

18才成人化に伴い、いわゆる「大人」とみなされる年齢が引き下げされることに伴い、18才になれば大人としての権利を行使できるとともに、大人としての責任も生じることとなります。ビジネスの世界では、あらゆる産業でICTを活用し、業務の効率化や多様な事業を展開し始めています。今年度の「高校生ICT Conference」では、インターネットのある環境で生まれた高校生が、こうした**高度にIT化された社会で活躍するために**、どのようなことに注意を払い、どのような能力が必要で、どのようにそれらを身に付けていけばいいかを18才になる高校生のうちに考えておく機会を設けることを目的としました。

※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。

開催の概要：**【各開催地での内容】** ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。

(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表
(6) 講評 (7) サミット参加者発表

【東京サミット】

(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表

	(5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表 【最終報告会】 (1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換
各開催地 募集人員等：	募集参加生徒 30名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30名（各開催地により変動あり）
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2018 実行委員会：	【委員長】 ・ 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） 【コアメンバー】 ・ 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者 団体訴訟室長） ・ 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） ・ 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） ・ 小城 英子（聖心女子大学） ・ 他、関係者団体、事業者等 【事務局】 安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180

2. 高校生 ICT Conference 2018 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
札幌	2018年9月16日	札幌ユビキタス協創広場 U-cala(内田洋行)
帯広	2018年9月17日	とかちプラザ
宮城	2018年10月7日	東北工業大学一番町ロビー
山形	2018年9月29日	山形県庁
茨城	2018年8月22日	茨城県立青少年会館
神奈川	2018年10月6日	学校法人岩崎学園
新潟	2018年8月20日	NCC 新潟コンピュータ専門学校
石川	2018年9月15日	金沢大学角間キャンパス
長野	2018年9月29日	安曇野市明科公民館
静岡	2018年9月24日	専門学校静岡電子情報カレッジ
愛知	2018年10月21日	名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)
大阪	2018年9月9日	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
奈良	2018年9月30日	帝塚山大学奈良学園前キャンパス
山口	2018年8月10日	サビエル高等学校

高知	2018年8月14日	高知県立伊野商業高等学校
福岡	2018年9月23日	エルガーラホール
大分	2018年8月26日	九州電力株式会社大分支社 2階大ホール
鹿児島	2018年8月18日	鹿児島大学学習交流プラザ
サミット	2018年11月3日	東京ユキビタス協創広場 CANVAS(内田洋行)
最終報告会	2018年12月中旬	

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待予定。(サミット熟議のみ参加) ※2017年度実績：福井

3. 高校生 ICT Conference 2018 in 長野 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 78 名の参加者を得て、「社会で活躍するための ICT 活用法 ～18 才成人化を控えて～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>《開会あいさつ》 (長野県教育委員会 心の支援課長 小松 容氏) [要旨] 長野県教育委員会は、本大会を高校生インターネット適正利用推進事業の一つとして位置付け、4 年前から参加してきました。参加校を中心に県内の多くの高校で、その成果が徐々に表れてきているように思います。今年も参加生徒が活発に熟議を交わし、県内に発信することにより、自らの課題に向き合い解決していくための力や態度を身に付けることを願っています。 (総務省信越総合通信局 情報通信部電気通信事業課 課長 坪内 大氏) 来賓としてあいさつをいただきました。</p> <p>《第一部：参加校発表①》 最初に全参加校が、以下の事前課題について 2 分間で発表を行いました。 ・子どもと大人（成人）の違いや、18 才成人化のメリットとデメリットについて ・大人として社会で活躍すること、そのために必要な能力について ・高校生として、社会で活躍するための具体的な ICT 活用法について ・インターネット・スマートフォンの利用に関して、学校で取り組んだこと（トラブルに対する予防や対策など）</p> <p>《第二部：事業者講演》 (株式会社 NTT ドコモ CSR 部 担当部長 山口 幸夫氏) 「社会課題解決に向けた ICT 活用～持続可能な社会実現への貢献～」と題し、企業の社会的責任（CSR）は、社会へのネガティブな影響を最小化するとともに社会にプラスの貢献（課題解決）をすることだと教えていただきました。現在、世界中の国や企業などが、持続可能な社会、脱炭素社会の実現に向けた目標達成のために様々な取組を実施しており、そのためには ICT の活用が不可欠（又は有効）であると話されました。参加生徒には、ICT を活用して社会課題の解決に貢献してほしい（社会で活躍してほしい）と訴えられました。</p> <p>《第三部：Conference①、熟議》 長野県教育委員会、長野県、総務省の方などがファシリテーターとなり、グループごとに、自己紹介やアイスブレイクを行った後、グループ別の熟議を行いました。 午前のテーマは「子どもと大人（成人）の違いや、18 才成人化のメリットとデメリットについて」でした。参加生徒はメモや付箋紙を模造紙に貼付しながら意見を交換しました。司会や記録の生徒が中心となって熟議の内容を整理しました。グループによって「自由と責任」「経験や知識」など観点が異なりました。 昼食もグループごとにとり、熟議は円滑に進みました。</p>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

午後はテーマを「大人として社会で活躍することについて」「社会で活躍するためのICT活用法について」に展開し、短い時間の中で活発に議論しました。大人（成人）としての責任やICT活用に際して注意を払わなければならない点に十分な配慮をしながら、社会で活躍する（社会の課題解決に貢献する）ための様々な提案がなされました。

各グループの発表はワールドカフェ方式で2ラウンド行いました。模造紙に整理した内容をもとに発表しました。

《第四部：Conference②、発表》

再び学校ごとの席次に戻り、グループで話し合った内容（Conference①）を最大限活かしながらまとめ、学校別の発表準備（発表資料の作成と発表方法・発表者調整、練習）をしました。その後、全参加校が4分ずつ提言発表を行いました。発表資料は模造紙にまとめる形とし、それをiPadで撮影しスクリーンに投影しながら発表しました。

（各学校の発表要旨は以下の通り）発表順

【長野県高遠高等学校】

「困っている？ ICTを使おう」と題して、これからの世界でICTをどのように利用できるかを考えた提言でした。コミュニケーションのきっかけづくり、災害時の情報共有、時間の有効活用、高齢者・障がい者・外国人とのコミュニケーションが具体例を挙げるとともに、ネットトラブル、スマホ依存症などの問題点も指摘し、小学校の時から怖さを知ること、自己管理の工夫など対策面の提言もありました。18才成人化を控えた高校生として、より大人であることを意識したICTを活用していきたいという意気込みが語られました。

【長野県松本工業高等学校】

「公式選挙Webページ」について、選挙権を持つ成人として政治に積極的に参画していけるように、ICTの活用ができないかという提言がなされました。「候補者の選挙公報を公開する」「有権者がコメントを残す仕組みを導入する」「コメントは住基カードと生体認証で認証された人のみ記入できる」「コメントを見て他の有権者の関心度を知ることができる」などの具体的な提案をするとともに、「選挙管理委員会が公平な立場で管理する」など、個人情報の使い方と公平性を強調しました。

【長野県松川高等学校】

人間がICTと共存していくことを細胞内共生に似た「地球内共生」と表現し、ユニークな寸劇を交えて発表しました。18才成人化を控えて、ICTを高校生がより理解し、教育や人手の足りていない仕事に取り入れることで、ICTがより活発になっていくのではないかと、人間とICTが地球内共生できる世界にならないか、という提言でした。

【長野県上田東高等学校】

18 才成人化のメリット・デメリットを押さえた上で、「ICTの可能性」と題して複数の提言がなされました。(1)障がい者でも不自由がないようなアプリを作りバリアフリーな社会を形成する。話したことが画面に文字化できれば耳の不自由な人も簡単に会話ができる。(2) SNSを使ってコミュニケーション能力を上げられる。テレビ電話などで世界中の人とテレビ会話ができる。自分の意見も簡単に発信できる。(3)睡眠時間、運動量などデータをとり健康管理に役立てる。(4)ビジネスへの活用として、単純作業はICTに任せる。(5)教育にもICT活用ができる。翻訳アプリの精度を高めより気軽に使える。

【長野県飯山高等学校】

「自分の話を聞いてほしい」として、自分の意見が反映される社会が望ましい社会であり、自ら発信していく力、アウトプット能力を生かすためにSNSやYoutube、翻訳アプリなどICTを有効活用したいという提言でした。そのための環境整備が必要不可欠で、遠隔会議の整備や教育現場での積極的なICT利用などが主張されました。

【長野県箕輪進修高等学校】

「未来を担う人材の育成」と題して、主に教育の世界での活用法に目を向けて提言がなされました。とくに自分の学校で考えられる活用例を具体的にわかりやすく発表しました。(1)多部制単位制は登校時間が異なる生徒が多く、出席状況は単位修得に関わるため非常に重要である。この管理を端末で行うことにより教師の負担を軽減できる。(2)課題提出状況から学習意欲の把握やきめ細やかな指導も可能となる。利用方法の問題については、アプリ使用時に校内ネットワークに接続させアクセス制限することで解決でき、よりよい授業環境が築けるのではないかと。

【長野県豊科高等学校】

「社会的弱者も活躍するためのICT活用法！」と題して、自分たちが成人した社会で、一緒に活躍してほしい人たちのための提言でした。具体的には、(1)VR、(2)テレビ電話(家にいながら習い事ができる、医師に診断してもらえる、学校に行けない人たちも少しでも社会に復帰できる)、(3)翻訳ツール(外国語以外に点字や障がい者のサポート)などを挙げていました。社会的弱者を障がい者だけでなく、医療の過疎地に暮らす人々や不登校生など幅広くとらえていました。

【長野県明科高等学校】

「ICTを活用しより良い社会へ」と題して、高齢者や体の不自由な人たちなど弱者の立場に立ったICTの活用法が考えられ、どんな立場の人ともトラブルなく協働できる社会の実現について提言されました。(1)体が不自由でも仕事に就くことができ誰でも輝ける社会に。体が不自由でも世の中に貢献できる社会に←就職サポートアプリの開発。手話や点字の翻訳機。(2)ストレスによる

自虐が少なくなり、一人一人が楽しく仕事、生活ができる社会に。←仕事の悩みが相談できる仕事相談アプリの開発。ヘルスケアのアプリ。SNSを使って多くの人と親睦を深める。(3)その他、選挙や教育へのICTの活用。

【長野県松本美須ヶ丘高等学校】

「ICTのさらなる進化」と題して発表されました。社会で活躍するためには、「新しいアイデアを出す」「ともに働ける仲間を見つけることができる」「自己判断力をつける」といった3つの力が必要であるとしました。有権者や消費者としての責任についても言及し、災害時の対応、少子高齢化・障がい者への配慮など社会問題についても指摘しました。現在の社会が抱える問題を解決するためにICTをより有効活用すべきだと提言しました。

【長野県松本深志高等学校】

「責任あるICT活用」と題して、「成人は自由を手に入れる反面、責任を果たさなければいけない」「世の中をより良くするために努力することが社会で活躍することである」と主張しました。そのためのICT活用法として、障がい者への補助、ICTを活用した新たな技術開発、農業・水産業での生産性向上と安定化が提案されました。また、この大会の発表準備もパワーポイントでまとめたり、スマホで場外の友人と相談できたりしたら良かったという意見は会場内の共感を得ました。

《講評》

(長野大学 企業情報学部 教授 田中 法博氏)

[要旨] 高校生がICT活用について議論すると、その技術面のメリットのみが目され、社会面への考察は深まりにくいものだと思っていました。しかし、本大会では、これから成人となる高校生が「社会で活躍するための」活用について深く考え合ったという点で、大変有意義なものであったと思います。多くの参加生徒がICT活用の際して、注意しなければならない点や、身に付けるべき能力についてまで言及できていたことに感心しました。グループ別の熟議では、初対面の高校生同士が活発に議論でき、そういった経験も今後の生活に生きていくでしょう。

本大会の成果を本日限りのイベントで終わらせることなく、ぜひ学校に戻ってからさらなる話し合いや取組につなげ、広く発信していただきたいと思います。

《閉会式、サミット代表発表》

(サミット代表 長野県松本深志高等学校)

長野県代表として、本日の成果を全国に伝えていく決意が語られました。

参加校：

長野県飯山高等学校
長野県上田東高等学校
長野県箕輪進修高等学校
長野県高遠高等学校

	長野県松川高等学校 長野県松本工業高等学校 長野県松本美須ヶ丘高等学校 長野県松本深志高等学校 長野県明科高等学校 長野県豊科高等学校 (順不同 10校)
日時：	2018年9月29日(土) 10:00-17:00
場所：	安曇野市明科公民館(長野県安曇野市明科中川手6824番地1)
参加人数：	熟議参加生徒 42人 見学者・関係者 36人(教員・教育関係者・その他) 合計：78人

4. 主担当

長野県教育委員会 安心ネットづくり促進協議会	事務局 会場、什器備品手配 飲食手配、庶務
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

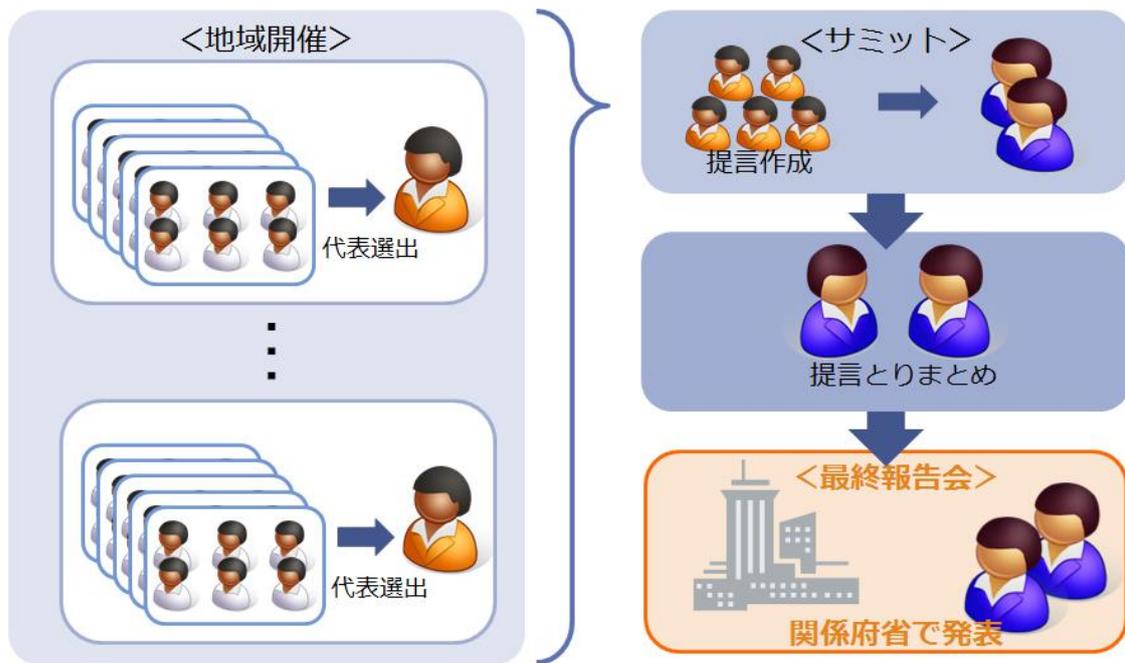
5. 高校生 ICT Conference 2018 サミット

高校生 ICT Conference 2018 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2018 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏る。



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2018 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2018 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以 上